

インフォメーション・コーナー

会 告

○2020年度(第69回)農業農村工学会大会講演会の講演申込み [㊦] WEB投稿受付期間 3月1日~4月10日	76
○2020年度(第69回)大会講演会における「企画セッション」の募集 応募締切 2月7日	78
○2020年度(第69回)大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み	
WEB投稿受付期間 3月1日~4月10日	79
○今年もやります! 農業農村工学会ミニ動画コンテスト“こりゃ映像! 2020” 応募締切 7月31日	80
○2020年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集 申請締切 2月14日	81
○2020年度「研究グループ」への助成希望者募集 申請締切 2月14日	81
○2020年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集 申請締切 2月14日	82
○学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集 応募締切 3月31日	82
○新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊(再)	83
○学生会員入会時の特典~新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです!~	83
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	83
○学会誌掲載報文等によるCPD通信教育の参加者募集!!	84
○2021年の学会誌表紙写真の募集 春季締切 6月30日	84
○「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!	85
○農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載	86
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局	86
○令和元年度京都支部講習会・研修会および農業農村整備地方セミナー(北陸東海近畿ブロック) の開催 [㊦] 1月31日開催	87
○農業農村整備政策研究部会第7回研究集会の開催 [㊦] 参加申込締切 1月14日	88
○水土文化研究部会第17回研究会の開催(第1報) [㊦] 参加申込締切 3月3日	88
農業農村工学会論文集 内容紹介	90
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム(一般参加可)一覧	92
受入れ図書	94
学会記事	94

第88巻第2号予定

展望: 高居和弘

小特集: 東日本大震災からの復旧・復興

報文: 農研機構の農業農村工学分野を中心とした原発事故対応研究: 久保田富次郎ほか

報文: 復興事業下での津波後に再生した湿生植物の保全対策: 神宮字 寛ほか

報文: 福島県飯館村における農業復興支援の大学による取り組み: 登尾浩助ほか

報文: 新設の福島大学食農学類の実践型教育と今後の課題: 申 文浩ほか

報文: 羽鳥ダム, 西郷ダムおよび大柿ダムにおける災害復旧: 利根基文ほか

報文: 仙台東地区における復旧・復興に向けた取り組み: 西尾利哉ほか

技術レポート

北海道支部: 肥培灌漑地区における臭気軽減効果の調査手法の検討: 小林 裕ほか

東北支部: 農業用ため池廃止工事の施工事例: 佐藤哲哉ほか

関東支部: 地震時における管路内動水圧変化の再現: 伊藤俊輔ほか

京都支部: 二重鋼矢板工法を用いた農地海岸堤防の耐震対策事例: 渡部 勉ほか

中国四国支部: 大兵衛・蔵井地区における希少生物に配慮した水路整備事例: 白石大樹ほか

九州沖縄支部: 大野原地域における畑地灌漑によるピーマン産地の育成: 梅野紘斗

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

Ⓟのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2020年 1月28日	農業農村整備政策 研究部会	第7回研究集会	—	東京都	88巻1号
2020年 1月31日	京都支部	令和元年度講習会・研修会・農業農村 整備地方セミナー（北陸東海近畿プロ ック）	国土強靱化に向けた防災・減 災の取組及び東海地域におけ る地域活性化の取組	名古屋市	88巻1号
2020年 3月10日	水土文化研究部会	第17回研究会	〈水土〉のエコノミー	東京都	88巻1号
2020年 8月25～28日	大会運営委員会	2020年度（第69回）農業農村工学会 大会講演会	—	鹿児島市	87巻12号 88巻1号

2020年度（第69回）農業農村工学会大会講演会の講演申込み

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2020年度（第69回）農業農村工学会大会講演会は、鹿児島大学農学部において2020年8月25日（火）、26日（水）、27日（木）の3日間、および現地研修会は8月28日（金）の開催を予定しています。

この講演会で講演発表を行いたい方は、下記要領にてお申し込みください。今回のご案内は、講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は、学会誌4号でお知らせします。

大会講演会の発表申込みはWEB投稿となります。

URLは<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>です。

WEB投稿の受付期間は2020年3月1日（日）～4月10日（金）です。

1. 講演要領

- (1) **講演資格**：代表発表者は、本学会会員に限ります。講演申込み受付の際、会員番号が必要です。この機会に入会される方は、学会ホームページの入会手続き（http://www.jsidre.or.jp/about_member/）をご参照ください。
- (2) **講演内容**：学術講演会にふさわしい内容を備えたもので、原則として未発表のものに限ります。現場からの報告も歓迎します。
- (3) **講演部門**：12部門あります。ただしプログラム編成上、希望した部門と実際の講演部門が異なる場合があります。
- (4) **講演方法**：原則として、1人（共同研究の場合は代表発表者）1課題です。ただし、企画セッションと個人発表の各1件ずつの発表は認めます。個人発表者が複数の企画セッションで発表することは、プログラム編成上の理由から認められません。
- (5) **発表形態**：発表形態として「口頭発表」または「ポスター発表」のどちらかを投稿時に選択してください。
 - ① 「口頭発表」：各部門の講演会場において、パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式。

- ② 「ポスター発表」：講演会場とは別のポスター展示会場において、会期中ポスターを展示するとともに、コアタイムと呼ばれる決められた時間帯にポスターを使って発表する形式。

なお、プログラム編成上、やむを得ず発表形態を変更する場合があります。変更に応じられない方はあらかじめ投稿票の「変更可否」で「否」を選択してください。プログラムならびに発表形態、ポスターの大きさなどについては、学会ホームページで6月末までにお知らせします。

- (6) **講演時間**：①口頭発表は1課題15分（質疑時間も含む）です。また、企画セッションは1セッション100分です。②ポスター発表では、会期中にコアタイムを設定します。
- (7) **要旨集**：(2)にあてはまるすべての原稿をCD-ROM版講演要旨集に収録します。
- (8) **概要集**：WEB投稿時の入力情報のうち、講演題目、発表者所属、氏名、講演概要（200字以内）を、概要集に収録します。講演概要が200字を超えるものについては、文章を割愛いたします。

2. 投稿要領

- (1) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロード、および講演申込料2,200円（税込）の納入をもって申込みとします。振替用紙には必ず『大会講演申込料』、氏名、所属を明記してください（郵便振替用紙は、郵便局に備え付けのものをご使用ください）。年会費等をまとめて支払う場合は内訳も明記してください。なお、送金後に発表を取り消されても、講演申込料の返金はいたしません。送金の控えをPDF以外の画像データで、WEB登録画面からアップロードしてください。
- (2) 講演原稿は、図・表・写真などを含め1課題2ページです。後述の「3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (3) 講演原稿ファイルはPDF形式のみのアップロードと

します。

- (4) 講演原稿 PDF ファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名(姓名)としてください(例:「nougyou tarou.pdf」)。

- ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF (アドビシステムズ社: Adobe Acrobat に付属) を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換した PDF ファイルとしてください。
- ・ PDF ファイルに、セキュリティ(文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更)の設定はしないでください。

- (5) 受付期間: 2020年3月1日(日)~4月10日(金)
(遅延・原稿差替えは不可)

(6) 問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会講演会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: zenkokutaiikai@jsidre.or.jp
郵便振替: 00160-8-47993
加入者名: 公益社団法人農業農村工学会
銀行振込: みずほ銀行 新橋支店
普通預金 1167243

3. 講演原稿の書き方

- (1) 用紙サイズは、A4判(横210mm、縦297mm)で、マージンは次のようにしてください(下図参照)。

上: 25mm、下: 27mm、左: 23mm、右: 25mm

(2) 書式

- ① 文字: 文字は、11ポイントとしてください。標準

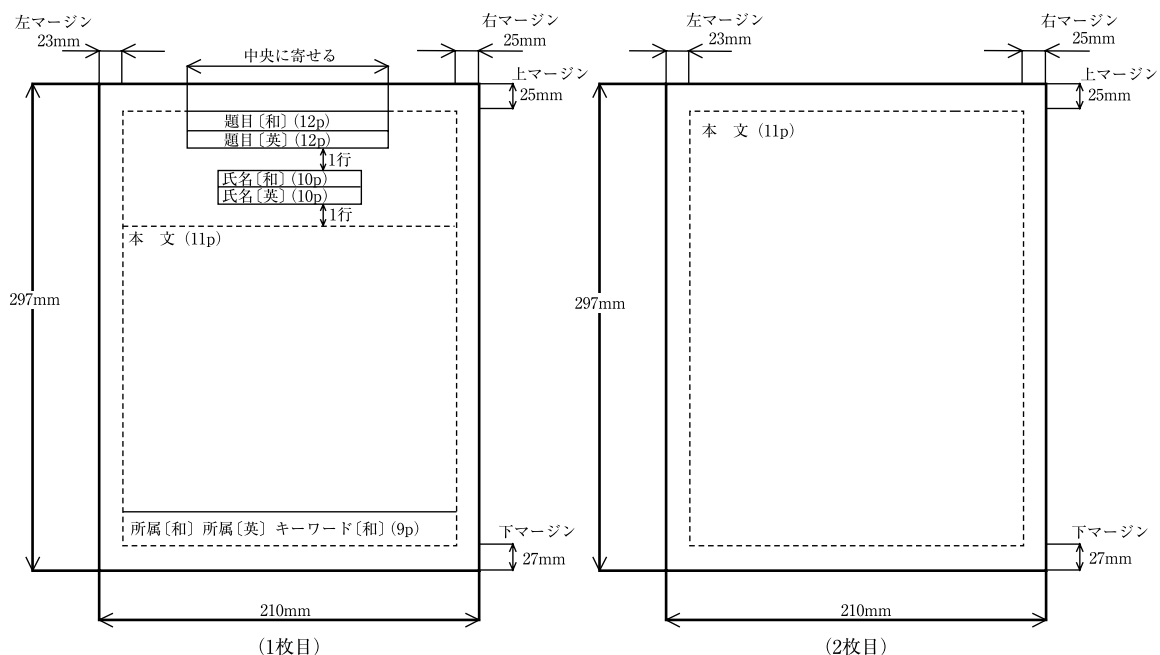
フォントとして、MS明朝、MSゴシック、平成明朝、平成ゴシックをお使いください。特殊なフォントは極力使わないでください。また、機種依存文字(①、②、…I、II、…等)も使わないでください。上下左右のマージン内いっばいに、1行40字、1ページ40行、横書きを標準として印字してください。ワープロソフトによりこの組合せができない場合は、上下左右のマージン内に必ず収まるようにしてください。

- ② 題目・所属・氏名・本文: 本文原稿の題目は、1ページ目の第1行と第2行に中央に寄せ、12ポイントで和英併記してください。講演者氏名は、第4行と第5行に中央に寄せ、10ポイントで和英併記してください。また、連名の場合には代表発表者の前に必ず○印をつけてください。

所属は、1ページ目の本文の下に横線を引き、その次の行に左に寄せ、9ポイントで1行に和英併記してください。所属に続けてキーワード〔和〕(キーワード表参照)を書いてください。なお、講演者および所属が複数ある場合は、講演者名の右上に*や**を付けて、講演者と所属が対応するようにしてください。

本文は、第7行から書き始めてください。2ページ目は第1行から書いてください。

- ③ 図・表・写真: 本文とともに原稿用紙内に書き込み(あるいは貼り込み)、幅いっばいにならない図・表・写真は右側に寄せ、左側の空白に本文を書いてください。また、図表の表題にも英語を併記してください。



キーワード表

1. 水 理	2. 水文・水質・気象	3. 土 壌 物 理	4. 土 質 力 学
流体力学一般 管・開水路流れ 河口・感潮域の水理 土砂水理 河川工学 水利システムの計測・管理・制御 水環境・水質 水利構造物 水理学的波動 数値流体力学 水産土木	水文統計 水収支・水循環 降雨特性 流出特性 洪水流出 長期流出 浸透流 地下水 蒸発・蒸発散 気象環境 気象災害 水資源開発・管理 降雪・融雪 水質 エネルギー循環	土壌の物理化学的性質 土壌構造 間隙構造 水分移動 溶質移動 保水性 土壌空気 レオロジー コロイド・粘土 土壌の熱的性質 凍上・凍結 土壌の生成・分類 土壌環境と植物根系 土壌微生物・土壌動物 特殊土壌	土の静力学的性質 土の動力学的性質 地下浸透・地下水流動 圧密・締固め 斜面安定・土圧・支持力 土構造物の解析 土構造物の地震時挙動 基礎工 土の分類 地盤の変形 安定処理・地盤改良 土構造
5. 応用力学	6. 材料・施工	7. 灌 漑 排 水	8. 農地造成・整備・保全
構造物の静力学的性質 構造物の動力学的性質 地震工学 構造物の設計手法 逆解析 岩盤力学 構造物・地盤等の連成問題 固体力学 構造力学 数値解析	コンクリート材料 コンクリートの性質 鉄筋コンクリート 特殊コンクリート 配合設計 二次製品 工法・施工 管理 施工機械 リサイクル 安全性 舗装 金属材料・瀝青材料・高分子材料 建設残土・廃棄物	計画手法 水田灌漑 畑地灌漑 灌漑施設 灌漑水温 水質制御 用水管理 地表排水 地下排水 排水施設 排水管理	農地造成 圃場整備 農地保全 土層改良 土壌改良 農地の汎用化 緑化 土壌侵食 干拓 農地保全施設 海岸保全施設 アグロフォレストリー 砂漠化 農地環境
9. 農 村 計 画	10. 環 境 保 全	11. 生 態 環 境	12. 農 業 土 木 教 育 ・ 農 業 情 報
産業経済計画 社会計画 土地利用計画 水利用計画・水利権 農用地計画・整備 集落計画 集落排水 道路計画・整備 生活施設 生産施設 農村振興 中山間地域 農村景観	環境保全 環境影響評価 水環境 大気 土壌 物質循環 地球環境	生態系 生物多様性 緑地 親水 ビオトープ 環境教育	農業土木カリキュラム 教育改善・FD 教育手法 技術者育成 継続教育 測量・GIS リモートセンシング IT インターネット

4. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。ま

た、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。

なお、特許等の出願にかかる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

2020年度（第69回）大会講演会における「企画セッション」の募集

2020年度（第69回）大会講演会（8月25～28日（28日は現地研修会）、鹿児島大学農学部）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はご応募ください。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定していますが、会員の皆様の自由な発想で企画セッションをご活用ください。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者

を予定する「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかです。

企画の申込締切は2月7日（金）です。申込みに当たって、下記事項を学会事務局（zenkokutaiikai@jsidre.or.jp）までE-mailにてご連絡ください。

- 1) 企画セッションのタイプ: 「クローズド・タイプ」または「オープン・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ

- 3) オーガナイザーの氏名, 所属, 連絡先電話, E-mail
4) 企画セッションの概要 (200 字以内)

なお, セッション数の関係上, 応募されたすべての企画セッションが採用されるとは限りません。また, 類似した企画が提案された場合や研究部会主催のシンポジウム等が別に企画されている場合は, 調整をお願いする場合があります。企画の採否については, 研究委員会より回答いたします。

「企画セッション」は, 特定のトピックについて, 原則 100 分間のセッションを, オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は, 通常の発表スタイルはもちろん, パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし, セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも, 最低 2 名以上の発表があることが前提です。なお, セッションの演者は非会員でも可能ですが, 大会参加費の支払いは必要です。

企画セッションでの発表者は, 企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが, 個人発表者が複数の企画セッションで発表することは, プログラム編成上の理由から認められませんので各オーガナイザーは発表者選定に当たり, この点に十分留意してください。

なお, 企画セッションも CD-ROM 版講演要旨集に講演内容

を収録します。各企画セッションの発表者は, 一般講演発表と同様に WEB 投稿を行ってください。

企画セッションの講演申込料は, 講演題数にかかわらず, 1 セッション当たり 13,200 円 (税込) です。

今後のスケジュールは, 以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの応募締切
2月7日(金)
2. 研究委員会で採否決定後, 応募テーマの採否の決定通知
2月21日(金)頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始 (発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む)
3月6日(金)頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3月19日(木)
5. 企画セッションの WEB 投稿締切
4月10日(金)

申込み・問合せ先

(公社)農業農村工学会事務局大会講演会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3 階
TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494
E-mail : zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

2020 年度 (第 69 回) 大会講演会における「スチューデントセッション」の講演申込み

2020 年度 (第 69 回) 農業農村工学会大会講演会は, 鹿児島大学農学部において 2020 年 8 月 25 日 (火), 26 日 (水), 27 日 (木) の 3 日間, および現地研修会は 8 月 28 日 (金) の開催を予定しています。

この大会講演会では, 学生会員における講演発表の経験の場として, また全国の学生会員の学術交流をはかる場として, スチューデントセッションを設けます。スチューデントセッションで講演発表を行いたい方は, 下記要領により, ふるってお申し込みください。今回のご案内は, スチューデントセッションにおける講演発表の申込みに関するものです。大会への参加全般に関するご案内は, 学会誌 4 号でお知らせいたします。

大会講演会の発表申込みは WEB 投稿となります。

詳細は <http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaiikai/> のご案内いたします。

WEB 投稿の受付期間は 2020 年 3 月 1 日 (日) ~4 月 10 日 (金) です。

1. 講演要領

- (1) 講演資格: 代表発表者は, 本学会の学生会員もしくは, 発表時点で学部を卒業あるいは大学院を修了後 1 年以内の会員に限りま。講演申込み受付の際, 会員番号が必要です。この機会に入会される方は, 学会ホームページの入会手続き (http://www.jsidre.or.jp/about_member/) をご参照ください。

- (2) 講演内容: スチューデントセッションでの講演内容は, 一般セッションの講演のようにまとまったものではなく, 博士論文, 修士論文, 卒業論文として取り組んでいる研究の途中経過や展望であってもかまいません。また国営事業地区等フィールド調査学生支援事業の成果報告等も歓迎します。ただし, 発表には指導教員の同意が必要です。

- (3) 講演部門: 一般セッション (個人発表, ポスター発表) および企画セッションとは別のスチューデントセッションでの講演です。

- (4) 講演方法: スチューデントセッションでの発表は, 1 人 (共同研究の場合は代表発表者) 1 課題です。ただし, 「一般セッション (個人発表, ポスター発表) あるいは企画セッション」と「スチューデントセッション」での各 1 件ずつの発表は認めます。

- (5) 発表形態: 発表形態は, 口頭発表 (講演会場において, パソコンのプレゼンテーションソフト等を使って口頭で発表する形式) に限ります。

- (6) 講演時間: 1 課題 9 分 (発表 5 分 + 質疑応答 4 分) です (講演数により変更する場合があります)。

- (7) 要旨集: (2) にあてはまるすべての原稿を CD-ROM 版講演要旨集に収録します。

- (8) 概要集: WEB 投稿時の入力情報のうち, 講演題目, 発

表者所属、氏名、講演概要（200字以内）を、概要集に収録します。講演概要が200字を超えるものについては、文章を割愛いたします。

2. 投稿要領

- (1) スチューデントセッションの講演申込料は無料です。
- (2) WEBから新規登録を行い、講演原稿のアップロードをもって申込みとします。
- (3) 講演原稿は、図・表・写真等を含め1課題2ページ以内とし1ページでも可です。本誌77ページの「2020年度（第69回）農業農村工学会大会講演会の講演申込み 3. 講演原稿の書き方」に従い、執筆してください。
- (4) 講演原稿ファイルはPDF形式のみのアップロードとします。
- (5) 講演原稿PDFファイル名は、半角ローマ字表記の代表発表者名（姓名）としてください（例：「nougyou tarou.pdf」）。
 - ・ Acrobat Distiller または Acrobat PDF（アドビシステムズ社：Adobe Acrobat に付属）を使用し、すべてのフォントの埋込みをして変換したPDFファイルと

してください。

- ・ PDF ファイルに、セキュリティ（文書パスワード、セキュリティパスワード、印刷、文書の変更、テキストとグラフィックス選択、注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定はしないでください。

- (6) 受付期間：2020年3月1日（日）～4月10日（金）
（遅延・原稿差替えは不可）

(7) 問合せ先

（公社）農業農村工学会事務局大会講演会担当 宇津木
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：zenkokutaikai@jsidre.or.jp

3. 著作権

要旨集と概要集に掲載された要旨等の著作権（著作財産権、コピーライト）は、（公社）農業農村工学会に帰属します。また、講演の概要等は科学技術振興機構（JST）に提供されます。なお、特許等の願にかかるとなる新規性の確保は講演者の責任で行ってください。

今年もやります！ 農業農村工学会ミニ動画コンテスト “こりゃ映像！ 2020”

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2020年7月31日（金）17：00
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2020年度のテーマ 農業用水
4. 応募資格 なし（どなたでも応募できます）
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞（1作品）2万円
優秀賞（2作品）各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする（9. 参考資料を参照）。
 - ③ タグに3つのワード（jsidre2020, こりゃ映像, (農業用水)を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT（new-suido@jsidre.or.jp）宛にメールで送る。

入賞賞金をお渡しするのに必要な情報（氏名、年齢、性別、所属、連絡先、YouTube動画のURL）

9. 参考資料

- ・ YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
- ・ スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>

<参考>こりゃ映像2019 結果（テーマ：農業用水）

最優秀賞：津軽を潤す農業用水

弘前大学 森田七海

<https://www.youtube.com/watch?v=F1o4-UXFjG4&feature=share>

優秀賞：3匹のこぶたで学ぶ農業用水

農研機構農村工学研究部門 新村麻実

<https://youtu.be/ByN1E1X1szQ>

優秀賞：奄美群島 沖永良部島

studio GHIKLI

<https://www.youtube.com/watch?v=YkaRDwJdESI>

2020 年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2020年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/format/>) より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてにお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 2020年度中(2020年4月から2021年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 2020年2月14日(金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載します。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

7. その他

助成金は2020年4月に送金します。

2020 年度「研究グループ」への助成希望者募集

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件程度です。

2020年度の申請締切は、2020年2月14日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会ホームページ参照)で研究委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請: 学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定: 研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成: 研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象: 申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分

野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽になりうること。

- (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。

- (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

- (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。

- (ホ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。

5. 活動報告: 助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。

注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。

注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内

容を採否通知に同封します。なお、助成金は2020年4月に送金します。

2020年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、大型科研費（SまたはA）やJST、各省庁のファンディング等の比較的大きな規模の競争的資金の獲得を目指す研究グループに対して助成を行います。助成額は、50万円（1件）です。

2020年度の申請締切は2020年2月14日（金）です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式（末尾参照）で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込みください。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容（申請の意義、準備の状況、将来の展望など）を検討して、助成するグループを決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件（助成対象）は次のとおりとする。
（イ）具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割

を対外的に示すことに貢献しうること。

（ロ）「研究申請書作成グループ」には代表者（本学会員）をおき、構成員（本学会員以外も可）は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

（ハ）代表者は論文集またはPWE誌の購読者（援助決定後の購読も可）であること。

5. 活動報告：助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。なお、助成金は2020年4月に送金します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切：2020年2月14日（金）

申込先：研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail：new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項：

- （1）WG名（または部会名）
- （2）代表者名・所属
- （3）参画者名・所属
- （4）研究テーマ名（仮）
- （5）研究の目的と内容（500字程度）
- （6）研究資金申請応募先（予定）

学会誌企画・編集委員会 学生委員の募集

学会誌企画・編集委員会では、学生向けの企画などを担当していただく学生委員を募集いたします。

募集要領は次のとおりです。ふるってご応募ください。

1. 応募資格

- （1）学生会員であること（応募時に入会も可）
- （2）年3回程度開催の委員会（東京都港区新橋にて開催）に出席できること（旅費を支給します）
- （3）E-mail, Web が使える環境にあること

（4）指導教官の承認を得ること

2. 任期 2020年4月から最長で2年。卒業、就職等で途中退任も可

3. 募集人数 2名

4. 応募締切 2020年3月31日（火）

5. 応募方法

下記①～⑦を記入の上、henshu@jsidre.or.jp までメールでお送りください。

- ①会員番号, ②氏名, ③大学名, ④2020年4月からの学年,
⑤年齢, ⑥承認を得た指導教官名, ⑦連絡先メールアドレス

6. 問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

新刊「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」の発刊(再)

農業農村工学会では、創立90周年の記念事業として、「改訂6版 農業農村工学標準用語事典」を2019年8月27日に出版いたしました。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,700円+税	4,500円+税

図書のパイプ方法

I. 個人・法人の場合(賛助会員を除く)

以下のいずれかによる代金先払いをお願いします。または代金引換をご利用ください。

- ① 郵便振替: 郵便局の払込取扱票の通信欄に図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先をご記入ください。

振込口座番号: 00160-8-47993 加入者名: 公益社団

法人 農業農村工学会

- ② 現金書留: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書を同封してください。

- ③ 代金引換: 図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書に「代引希望」と書き添えてE-mailかFAXでお送りください。別途、代引手数料と送料の実費がかかりますので担当者からご連絡いたします。

II. 官公庁の公費購入および賛助会員の場合

図書名・冊数・送付先・担当者名・連絡先を記載した注文書をE-mailかFAXでお送りください。

III. 送料

1冊200円, 2冊400円, 3冊以上600円

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

学生会員入会時の特典

～新刊の用語事典がセットで従来価格据置きです！～

農業農村工学会では、将来を担う若い方達が早くから学会活動に参加することを通じて、よりよく社会に貢献できる環境づくりを目指しています。その一環として、学生の方々が少しでも入会しやすいように、学生会員入会特典を設けております。

これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご利用ください。

①ハンドブック3点セット

(ハンドブック+用語事典+初年度会費)

学部生 17,000円 (15,750円)

大学院生 19,500円 (16,750円)

②必携3点セット

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000円 (5,750円)

大学院生 10,000円 (7,250円)

③2点セット

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000円 (3,750円)

大学院生 8,000円 (5,250円)

()内の金額は、10月1日以降(半期)入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを後日提供する予定です。

ハンドブック: 改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携: 資格試験のための農業農村工学必携(第二版)

用語事典: 改訂6版 農業農村工学標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail: suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 1 号掲載の問題は 2 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録

（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2021 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2021 年発行の学会誌も引き続き学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦勞が垣間見える造形美・用の

美など」

2. 対象巻号 学会誌第 89 巻（2021 年第 1~12 号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます。なお、六つ切りは 203×254 mm、四つ切りは 254×305 mm、同ワイドは 254×356 mm、A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 春季 2020 年 6 月 30 日

夏季 2020 年 9 月 30 日

※応募時、過去 1 年以内に撮影したものに限りません。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第 89 巻第 1 号で採用作品と掲載号を発表し、採用作

品は2021年度大会講演会会場でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History (表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文(500字程度)をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 著作権・出版権

採用作品の使用権および出版権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的に

は、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名詞)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494

E-mail: henshu@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第88巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ	要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第88巻第2号 東日本大震災からの復旧・復興(仮)	終了
3号 新規就農者の可能性とそのための課題や取組み(仮)	終了
4号 農業農村工学分野におけるJABEE認定プログラムの持続可能性と課題(仮)	終了
5号 Society 5.0に向かう農業農村工学(仮)	終了
6号 農業水利施設の補修工法選定上の課題(仮)	終了
7号 大会特集号(九州沖縄支部)	公募なし
8号 「多様な主体が住み続けられる農村」の振興(仮)	3月10日
9号 農業用ため池の持続的な保全管理手法(仮)	4月10日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
(公社)農業農村工学会
農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: henshu@jsidre.or.jp

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

第88巻第8号テーマ「『多様な主体が住み続けられる農村』の振興」(仮)

多様な主体が住み続けられる農村社会の構築が求められています。そのために一つには、農村に住むための基礎的条件、さらに、住みたくなる条件の整備を進めていくことが必要です。あと一つには、地域資源を適切に保全管理しながら、同時に持続可能な形で最大限活用し、農業・農村の多様性を活かした農村振興を図ることが必要です(食料・農業・農村政策審議会農

業農村振興整備部会の第1回(令和元年6月24日)の配付資料「農業農村整備の新たなフロンティア—新しい時代が到来する中での農業農村整備の課題整理—」)。

具体的には、たとえば「条件不利地域における多様な主体が連携した地域づくり」として、中山間地域における特産品の産地形成や、営農体制の確立と企業誘致などが挙げられます。ま

た、「担い手以外の者が引き続き住み続けるための方策」として、集落営農による全員参加型の地域農業なども挙げられます（平成30年度水土文化研究部会研究会、石井克欣農林水産省農村振興局計画調整室長資料）。

第88巻第9号テーマ「農業用ため池の持続的な保安全管理手法」（仮）

農業用ため池について農業農村工学分野では、長年、老朽化対策、耐震性、維持管理、ハザードマップから、多面的機能や生態系まで、広範囲に研究と技術の対象にしてきました。

しかし、近年の大型で強い台風による豪雨や大規模地震により被災が多発するとともに、人命にも影響を及ぼす事象が発生しています。このような状況から、先に政府では、全国のため池の緊急点検を実施し、2019年4月にはため池の適切な管理および保全を目的とした「農業用ため池の管理及び保全に関する法律」（ため池新法）を公布し、2019年7月に施行しました。

ため池は、現在全国に16万7千カ所分布し、その管理も多

本小特集では、「多様な主体が住み続けられる農村」の振興に関する事例を通して今後を展望する報文を広く会員の皆様から募集いたします。

くは水利組合や集落など地域に委ねられており、農家の減少や高齢化を背景とする保安全管理の体制の脆弱化、さらには廃止を含む検討が必要なため池の存在など、多くの困難な課題を抱えているのが現状です。

このため、これまでの知見や技術を結集し、ため池の持続的な保安全管理を技術面から担うことが求められています。

そこで本小特集では、これまでのため池に関する知見や技術をレビュー、整理し、これらを社会に広く発信するとともに、今後必要とされる研究や技術開発素材に関する事項について、幅広い方々からの報文を募集します。

農業農村工学会論文集におけるコレスポンディングオーサーの記載

農業農村工学会論文集は、現在コレスポンディングオーサーを記載するシステムになっております。投稿される皆様に改めてご案内申し上げます。農業農村工学会論文集投稿の手引き（平成27年3月16日改正：第236回理事会報告）の「6.2 投稿手順」に「⑩追加投稿情報（会員番号、コレスポンディングオーサー等）の入力」の記載があります。

また、投稿システムの著者マニュアル（Ver.15.0～、2018年7月改訂）に「3-6 追加登録情報を入力する」がありますのでご

確認ください。さらに、論文集の完全版下原稿（邦文）の作成例 Ver.5 などにも記載例が示されていますので、併せてご確認ください（学会ホームページ http://www.jsidre.or.jp/how_to_post/ からダウンロードできます）。

なお、掲載済みの論文に遡って、コレスポンディングオーサーの証明を必要とされる方は、農業農村工学会論文集企画・編集委員会（E-mail: ronbun@jsidre.or.jp）まで、ご連絡ください。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018年7月から2020年6月までの編集事務局

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017年のインパクトファクター（IF）は過去最高の1.379となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）

- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）
- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
- ⑦ 水利施設と減災・防災（施設管理、地すべり、気候変動、災害防止など）
- ⑧ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
- ⑨ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象環境）
- ⑩ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
- ⑪ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）

また、世界11カ国からEditor（19名）を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

一方、2018年7月から、新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ **Editor-in-Chief** : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ **Associate Editors-in-Chief**
 - Dr. Seong-Joon Kim
Konkuk University, Korea
 - Dr. Chen-Wuing Liu
National Taiwan University, Taiwan, ROC
- ・ **Editors** 11 カ国から 19 名
- ・ **Editorial Advisors** 29 名
- ・ **Chief Managing Editor**
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ **Managing Editors**
 - Dr. Eunmi Hong
Kangwon National University, Korea
 - Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
 - Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
 - Dr. Kuo-Wei LIAO
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
 - Dr. Hiroshi IKEURA
Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS),

- Japan
Dr. Andrew WHITAKER
Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan
- 編集事務局 (2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで)
 - ・ Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN
TEL : + 81-75-753-6156
FAX : + 81-75-753-6476
E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp
- 投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。
- 投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。
- 投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。
- 発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)
- 購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円+税
 - 学生会員 (院生含む) 4,500 円+税
- 非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込みください。
- なお、オンラインジャーナルへの完全移行に伴い、2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。
- 申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員登録番号を明記の上、お申し込みください。

**令和元年度京都支部講習会・研修会
および農業農村整備地方セミナー (北陸東海近畿ブロック) の開催**

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



近年、自然災害が頻発化しており、令和元年には台風第 19 号などにより東北・関東地方を中心に甚大な被害が発生しました。このような中、農業農村整備事業として、農村地域における国土強靱化に向けた防災・減災の取組みは喫緊の課題として、その対策を図っているところです。一方で、農村地域では、人口減少や過疎化・高齢化などに伴い、その活力が減退している状況の中、各地でその地域独自の強みを活かした地域活性化や地域振興の取組みが進められています。

農業農村整備関係者としては、多様で豊かな農業と美しく活力ある農村を実現する地域政策と自然災害に強い農村を実現する強靱化政策を大きなテーマとして、農村の現状や今後の方向性を正しく把握・分析して、取組みを進めることが重要です。

今回は、農業農村工学会京都支部および全国農村振興技術連盟の同時開催により、「国土強靱化に向けた防災・減災の取組及び東海地域における地域活性化の取組」と題して、学識経験者、

地域リーダー、行政関係者等 (仮) の多様な講師により、皆様の地域における取組みに役立つ幅広い情報を提供させていただくこととしましたので、講習会・研修会および地方セミナーに、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

1. **主 催** 農業農村工学会京都支部
全国農村振興技術連盟
2. **テーマ** 国土強靱化に向けた防災・減災の取組及び東海地域における地域活性化の取組
3. **日 時** 令和 2 年 1 月 31 日 (金) 11 : 00 ~ 16 : 15
4. **場 所** 中電ホール 大会議室
愛知県名古屋市中東区新町 1 番地
TEL : 052-951-6908
5. **プログラム概要**
10 : 00 受付
11 : 00 ~ 14 : 00 講習会・研修会

14:00~16:15 地方セミナー

(詳細につきましては京都支部ホームページ <http://jsidre.or.jp/kyoto/>にてお知らせいたします)

6. テキスト代

3,000円(別途請求書, 領収書を発行します)

7. 申込締切 令和2年1月10日(金)

8. 参加申込方法および申込先

- ① 各地方連盟で取りまとめの上, 所属する地方協議会にお申し込みください。
- ② 地方協議会に所属されていない個人会員の方は, 全国農

村振興技術連盟へ直接お申し込みください。

- ③ お申込みはいずれも, 所属・氏名を明記の上, E-mail, FAX またはハガキをお願いします。

〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4

全国農村振興技術連盟

TEL: 03-3434-5407 FAX: 03-3578-7176

E-mail: kensyu@n-renmei.jp

9. その他

本セミナーは農業農村工学会技術者継続教育機構の会員のCPD単位(申請中)にカウントされます。

農業農村整備政策研究部会第7回研究集会の開催

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農業農村整備政策研究部会は, 農業農村整備政策を進化・発展させるため, 行政関係者と研究者などが日々の成果を発表する研究集会を毎年開催しております。この度, 下記の要領で第7回の研究集会を開催することといたしました。

目まぐるしく移り変わるわが国の経済社会に対応した農業農村整備政策の推進は, わが国の農業の基盤強化と豊かな農村の実現にとって急務です。この研究集会を農業農村整備政策の進化・発展に向けた議論の場としたいと思いますので, 研究者や行政関係者などの皆様におかれましては, 是非ご参加いただきますようお願いいたします。

記

1. 日時: 2020年1月28日(火) 15:00~18:00
2. 場所: 東京大学農学部 ※教室は決まり次第メールでご連絡いたします。
〒113-8657 東京都文京区弥生 1-1-1
(東京メトロ南北線「東大前駅」下車 徒歩1分)
3. プログラム
 - ① 「農村政策の現状と今後について(仮)」
農林水産省農村振興局農村計画課 寺田周平 課長補佐
 - ② 「中山間地農業ルネッサンス推進事業における実証事業について(仮)」
鹿島建設(株)環境本部グリーンインフラ&コンストラクショングループ 曾根 課長代理

- ③ 「簡易ポートによるため池水深の測定(仮)」

東京大学大学院農学生命科学研究科 木村匡臣 助教

- ④ 「AIを活用した鳥獣害対策~AIによる野生動物の判別~(仮)」

農研機構農村工学研究部門地域資源工学研究領域 成岡道男 上級研究員

- ⑤ 「愛知県における農業ため池に係る防災対策について(仮)」

愛知県農林基盤局農地部農地計画課 河合成昭 主任

- ⑥ 「農業農村整備事業に係る地方単独事業制度に関する分析(仮)」

農林水産省農村振興局設計課 草 大輔 課長補佐

※内容は都合により変更となる場合があります。

4. 懇親会

研究集会終了後, キャンパス内(東大生協 農学部食堂)にて18時15分から懇親会(会費:1人3,000円)を開きます。参加者は事前にお申し込みください。

5. 参加申込み

参加ご希望の方は, 1月14日(火)までに下記の部会事務局に, 氏名, 所属, メールアドレス, 懇親会の出欠予定をE-mailにてご連絡ください。研究集会の参加費は無料です。

6. 問合せ・参加申込み先

農業農村整備政策研究部会事務局 担当: 草, 三上, 小泉

E-mail: seisaku-bukai@jsidre.or.jp

TEL: 03-3591-5798

水土文化研究部会第17回研究会の開催(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



“〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系”である〈水土〉は, 農業を基軸とするも, 経済行為にとどまらない多彩な事象に満ちている。〈水土〉をいかに見極めるか, それは来し方・行く末を展望する上での基本であり, かつ永遠の課題である。

モノとサービスの挙動を捉えるツールとしての経済学は, 「合理性」を基本概念とし分析手法を多様化・精緻化させつつ, 純粋な経済的事象にとどまらず, 事象を支えるヒトにも焦点を

合わせ, その行動や規範, 組織・制度, つながりなど社会の枠組みにまで〈知〉の領域を拡大してきた。他方, 近年の自然環境の劣化や所得格差の拡大などを背景に, ツールの意味を問い返すような動きも出てきている。

〈水土〉を維持・育成する農業農村整備についての計量経済分析に長年携わり斬新な知見をもたらしてこられた第一人者とともに, 最新の経済学的アプローチから何が見えてくるかを中心

に、さまざまな視点から〈水土〉の捉え方について議論したい。

1. テーマ 〈水土〉のエコノミー
2. 日 時 令和2年3月10日(火) 13:30~16:30
3. 場 所 農業土木会館 2階 A会議室
〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4
TEL: 03-3434-0461
4. プログラム
講演: 農研機構農村工学研究部門 國光洋二
コメンテーター: NTC コンサルタンツ(株) 中田撰子
パネルディスカッション: 講演者+コメンテーター
コーディネーター: 水土文化研究部会 広瀬 伸
5. 参加料 無料
6. 申込み・問合せ先
〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6

(国開)農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門
地域資源工学研究領域 地域エネルギーユニット
ユニット長 後藤真宏
TEL: 029-838-7548 FAX: 029-838-7609
E-mail: griese@affrc.go.jp

7. 参加申込要領

整理の都合上、3月3日(火)までに以下の要領にてお申し込みください。

氏 名	(CPD 番号)
所属機関	
所在地	
電話番号	
FAX 番号	

*部会員以外の方も参加できます。

オンラインジャーナル 農業農村工学会論文集

農業農村工学会論文集は、より投稿しやすい環境と早期公開を実現するため、平成27年4月より J-STAGE を利用したオンラインジャーナルになりました。

J-STAGE 上に公開されることで被引用環境も整っています。

進化した農業農村工学会論文集に皆様のご投稿をお待ちしております。

- 電子投稿・査読システムの導入により、平均4.3カ月で審査終了!
- 審査終了後、順次 J-STAGE に掲載!
- 論文集購読者は、オンライン登載直後より閲覧可能、
冊子体も配布、掲載料も低価格!
- 投稿資格を緩和、非会員も条件により投稿可能に!